

事務事業名		博物館管理事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業								
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目								
	施策名	25 生涯学習の推進					会計	款	項	目	事業				
	基本事業名	01 生涯学習推進体制・施設の充実			☐ 単年度のみ		01	10	05	06	03				
根拠法令					☒ 単年度繰返 (開始 昭和41 年度～)										
所属	部課名	教育委員会博物館			☐ 期間限定複数年度										
	課長名	木川田 大典			【計画期間】										
	係名	博物館	電話	29-2161	年度 ～ 年度										
	担当者	大和田 美奈	内線	-	※全体計画欄の総投入量を記入										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・大船渡市立博物館(昭和41年に岩手県第2号の登録博物館)の施設管理を行う事業。 ・主な業務は、①施設・設備の整備(修繕)、②施設の維持管理(10業務を委託)、③特別開館の実施(年5日程度)、④博物館無料開放の実施(基石海岸観光まつり期間中、3日程度)、⑤博物館施設の供用(市民ギャラリー・多目的ホール等)、⑥博物館情報の提供(市広報、市ホームページ、事業案内ポスター等)、⑦日本博物館協会・岩手県博物館等連絡協議会への加盟、⑧博物館総合保険への加入、⑨入館料・企画展示図録売払代金等の徴収。 ・事業費は、施設・設備の維持管理業務委託料、施設設備の修繕料、光熱水費、賃借料などに支出される。											総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金		
													都道府県支出金		
													地方債		
													その他		
													一般財源		
													事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数														
	延べ業務時間														
	人件費計(B)	0													
	トータルコスト(A)+(B)	0													

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
身障者用トイレ水道パイプ修繕、館内照明修繕、来館者用トイレ壁面等修繕、赤沢収蔵庫シャッター修繕、車両修繕等を実施。特別開館を年5日実施。市広報/市ホームページ等で博物館情報を提供。	ア 保守点検実施回数 回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 施設設備修繕実施件数 件
非常用照明器具内蔵バッテリー交換、消防用煙・熱感知器交換等の実施。自家発電機購入。特別開館を年6日実施。市広報/市ホームページ等で博物館情報を提供。	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
博物館利用者(市民、基石海岸を訪れる観光客)	名称 単位
博物館施設・設備	カ 博物館利用者数 人
	キ 博物館延床面積 m ²
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク
快適な環境で気仙地域の自然と文化を学ぶことができる	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 施設設備の故障・不具合発生件数 件
学習に必要な環境がある	シ 施設設備の故障・不具合対応率 %
	ス

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	単位						
	財源内訳	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	221	650	727	350	350	400
	一般財源	千円	8,544	8,784	8,966	9,000	8,800	9,000
	事業費計(A)	千円	8,765	9,434	9,693	9,350	9,150	9,400
	人件費	人	4	3	5	4	4	4
	延べ業務時間	時間	1,200	820	2,070	1,300	1,300	1,300
指標	人件費計(B)	千円	4,800	3,280	8,280	5,200	5,200	5,200
	トータルコスト(A)+(B)	千円	13,565	12,714	17,973	14,550	14,350	14,600
	⑤活動指標	ア 回	26	30	30	30	30	30
		イ 件	24	11	13	8	8	8
		ウ						
	⑥対象指標	カ 人	2,621	7,204	6,511	4,000	4,000	4,500
		キ m ²	2,058	2,058	2,058	2,058	2,058	2,058
		ク						
	⑦成果指標	サ 件	33	15	22	10	10	10
		シ %	73	73	59	80	80	80
		ス						

事務事業ID	0894	事務事業名	博物館管理事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
昭和41年、博物館法に基づいた登録博物館になったことをきっかけとして開始した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・施設・設備の修繕は、計画的な修繕以外に雨漏りなど突発的な不具合が多発する傾向にあり、その対応を優先するため、修繕料は不足傾向である。 ・利用者数は昭和61年度から減少傾向にあったが、平成14年からは1万人前後で推移している。碓氷海岸観光まつりの2日間は展示室無料開放を実施し、年間利用者数の2割にあたる2千人以上の利用がある。平成15年度から小中高校生の無料化を実施し、入館料収入は減少している。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・利用者から、夏場の館内(地質展示室、多目的ホール、会議室)が猛烈に暑いため、冷房を設置してほしい。 ・利用者から、オストメイト対応トイレを整備してほしい。 ・利用者から、おむつ交換のできるスペースを整備してほしい。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 来館者の利用環境を向上させるために行う事業なので、生涯学習推進体制・施設の充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 博物館は市の生涯学習施設であり、その維持管理は市で行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 生涯学習施設の維持管理であり、対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 開館して30年以上が経過しており、施設の老朽化から突発的な不具合が起こることが多くなっている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 利用者の快適な学習環境を維持できず、学習に必要な環境が失われる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 博物館の維持管理事業は他に手段がない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 平成17年度は光熱水費(電気使用料)を節約し、平成14年度比較で年間約400千円の削減が実現できた。平成18年度には電気料金の契約内容を変更し、節約と併せて前年度比約80千円削減した。その一方、施設の修繕箇所は年々増え、修繕料も不足している。また光熱水費・燃料費の単価の変動が著しく、予算内のみでの執行が難しい場合もある。したがって、全体としては削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 施設の維持管理10業務をビル管理会社等へ一括発注することができれば契約等の事務は軽減するが、ビル管理会社が市内には無く、地域の個別事業者が発注せざるを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 一般からは入館料を徴収している。

事務事業ID	0894	事務事業名	博物館管理事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	施設・設備の整備では、館内照明修繕、来館者用トイレ壁面等修繕、赤沢収蔵庫シャッター修繕などを行い、身障者用トイレ水道パイプ修繕などの突発的な不具合にも対処した。 施設の維持管理は、委託業者へ各種保守点検を依頼し、適切な状態を保つことができた。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) ・昭和57年の新館開館から32年が経過し、施設・設備が経年劣化していることから、定期的な保守点検を行い不具合の早期発見とその対応に努める。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																						
・各種施設の老朽化に加え、東日本大震災の被害による不具合が発生し、早急に修繕が必要となる箇所が多数見つかった。																						

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 生涯学習課長	(氏 名) 木川田 大典
-------	-------------------------------	-----------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																						
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																						
☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている																						
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																						
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																					
<table><tr><td>① 目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>② 有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>③ 効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>④ 公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	概ね妥当な事務事業執行がなされている。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事務事業を実施する。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項